東京東雲

鳥取県立鳥取東高等学校同窓会
東京支部

東京東雲会会報　第3号
令和2年5月発行

編集・発行：東京東雲会
題字：奥村 浩治（山脈22回）

令和元年 東京東雲会総会＆懇親会 集合写真

ウイルスに負けないで、再会を願い

東京東雲会会長　林田 英樹（山脈12回）

毎年7月第一週の土曜日に開催している東京東雲会の総会・懇親会が、今年も近づいてきました。役員の皆さんと相談しながら7月4日（土）の開催に向けて準備を進めております。

しかしながら、ご承知のとおり新型コロナウイルスが猛威をふるい、現時点（4月下旬）では開催できるかどうかの見込みが立たない状況です。開催するかどうかの決定は、少なくとも1か月ほど前には行い、お知らせしたいと考えております。

開催することができる場合には、恒例の講演は日程に入れず、音楽や福引などでお楽しみいただき、懇談・交流を楽しんでいただく会としたいと考えておりますので、多くの皆様のご参加をお願いいたします。

会員の皆様に母校と東京東雲会や会員の近況をお伝えし、一層親しみを持っていただくとともに、それぞれの末永い発展の一助となることを願って、会報を発行しましたが、早くも3号目となりました。

ご承知のとおり、母校は、いよいよ2年後に創立百周年を迎えることとなりました。東京東雲会としても、この大きな節目に、お世話になった母校のお祝いに出来る限りの協力をしたいものと考えているところです。

東高の歴史の中で、特に長く勤務された先生の筆頭は、何と言っても倉恒貞夫先生ですが、残念ながら1月に逝去されました。昨年の会報には、先生が書かれて京阪神東雲会の会報に掲載された「古代東高史」の第1回を転載し、今回は第2回を掲載しております。また、倉恒先生と特別に深い師弟関係があった岡田俊一京阪神東雲会会長に追悼文を書いて頂きました。東京東雲会にも数年前までたびたび出席され、本当にお世話になった先生です。心より、ご冥福をお祈りいたします。

昨年の総会では、CMディレクターの浜崎慎治さん（山46）に講演していただきましたが、その浜崎さんが初めて監督した映画「一度死んでみた」が3月20日から上映されて、好評を博しています。東京の映画館が再開したら、是非ともご覧ください。

新型コロナウイルスなどに負けないで、元気で再会いたしましょう。

東京東雲会
令和元年度総会＆懇親会

令和元年度総会は、恒例の７月第１土曜日の７月６日、山脈３回から62回までの幅広い年代の会員、鳥取から母校 尾室真郷校長先生・東雲会 常田享詳会長・滝波和宏事務局長、また鳥取県東京本部、鳥城会（鳥取西同窓会）からの来賓を含め、約90名の出席者のもと、盛大に開催されました。

まずは全員で校歌斉唱。冒頭、林田英樹会長から、「新しい時代を迎え東京東雲会も若い会員の参加・運営で盛り上げ、益々楽しい会にしていきたい。」と挨拶。そして今最も多忙なCMディレクター、「au三太郎シリーズ」・「家庭教師のトライ」等のCMで著名な、浜崎慎治さん（山46）が同窓会のためにと講演。浜崎さんが監督された実際のコマーシャル映像を見ながら「CMと東高時代の思い出など」を語られ、楽しくも印象に残る講演をして頂きました。

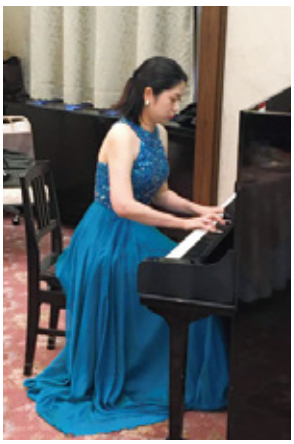
その後、鈴木誠名誉会長の発声で乾杯、第２部懇親会がスタート。鳥取からのお土産に頂いた竹輪と西瓜に舌鼓を打ちながら、故郷・母校に思いを馳せ談、笑の輪が広がり、途中これまた母校出身のピアニスト、渡邉絵理子さん（山59）の演奏で、ピアノの演奏に一同魅せられました。そして恒例の福引会へと続き、盛り上がりは最高潮に！

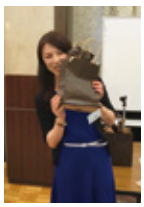
最後に、全員で『ふるさと』を歌い、万歳三唱で締め、名残惜しみつつ、来年の再会を誓って散会となりました。

食べて・語って・聴いて・唄って、そして楽しんで、東京東雲会らしい、アットホームな会となりました。

令和２年の総会は、７月４日（土）12：00開会、於：法曹会館　となります。多数の皆様のご参加をお待ち申し上げております。

東京東雲会幹事長　奥田真三（山脈23回）





昨年の総会&懇親会に参加して

〔敬称略：卒業年順〕

三年振りの東京東雲会総会で山脈５回、７回の方々の参加が激減してびっくり！ 一人ぼっちの山脈４回の私を山脈７回の仲間に入れて下さり感謝。また、林田会長が気楽に声を掛けて下さり恐縮とともに嬉しく思いました。転勤族の私にとって同窓会は「鳥取県人」であることを再確認する場であるとともに、18歳の少女に還るのです。今年も「通行手形」を持って（映画『翔んで埼玉』）東京に行くのを楽しみにしています。同窓会を運営して下さる方々に感謝申し上げます。　（山脈4回　田口 都　旧姓：松下）

東高を卒業後、訳あって校庭の端に建つ専攻科で余分に修学。翌年、大学入学を機に上京し約30年が経ちました。昨年、小川町BaRuRu店主の片山香織様（山45）にお誘いいただき東京東雲会総会に初参加。大大先輩方の中、当初は緊張もしましたが、とうふ竹輪やあご竹輪をつまみにお酒を酌み交わすうちにすっかりリラックス。若手メンバー（？）での二次会までたっぷり楽しみ、「また来年！」と、みなで誓いました。“たかが同窓会、されど同窓会”また来年もぜひ参加させてください。　（山脈40回　小林 陽子）

昨年の７月、初めて「東京東雲会」総会&懇親会に出席させていただきました。きっかけは東高時代の同級生からのお誘いでした。同級生の懐かしい顔ぶれにも東京で再会することができてとてもうれしく鳥取仲間の絆を感じると共に、様々な経歴をお持ちの大先輩方とも交流を深めることもでき、大変有意義な時間を過ごすことができました。初めての参加でしたが、皆さま大変温かい方ばかりで、この会に参加することができて本当に感謝しています。全く違う環境にいる卒業生の皆がこうして一同に集れる貴重な「東京東雲会」のますますの発展を期待しています。

（山脈45回　林 智子）

欠席者からの便り
～総会出欠ハガキ通信欄より～

〔敬称略：卒業年順〕

◉最近は身体的にあまり外出できなく欠席しますが、東京東雲会の益々の発展を願っています。（山２ 岩田 拓郎）◉遠方への外出は控えていますが元気です。盛会をお祈りします。（山５ 岸本 郁夫）◉元気に登山のボランティアをやっています。（山６ 成川 隆顕）◉東高を卒業して鳥取を離れて60年以上、当時の生徒会が素晴らしく元気がみなぎっていたことを懐かしく思い出します。益々の盛会を！（山10 酒田 紀子）◉昨年３月まで東京大学・大学院理学系研究科で電波望遠鏡受信回路の研究を手伝ってと頼まれ、８年余本郷に通いました。エンジニアとしてリタイア後も充実した時間を過ごせたことはとても幸せに感じています。（山11 大口 脩）◉山脈13回在京同期会を隔年でやっています。今年も秋に開きます。毎回20人位の参加です。（山13 山本 宏義）◉旅行、水墨画、川柳と趣味を通して人生の後半を楽しんでいます。（山14 岸本 壮太郎）◉鳥取に親の実家が残っているため、越谷と鳥取を行ったり来たりしています。鳥取は海や山があるのが良いですね。（山18 平尾 美津枝）◉現在は全国公立学校教頭会の学校運営誌編集室長として頑張っています。（山21 奥田 誠）◉ラグビーワールドカップ2019の大会ボランティア活動と重なり欠席させていただきます。（山23 森下 善正）◉仕事柄７月～８月は例年海外長期出張に出掛けています。出席できなくて申し訳ありません。（山24 梶浦 敏雄）◉昨年の総会では楽しいひと時を過ごせました。今年は親族会と時間帯が重なり残念ながら欠席します。（山25 村上 博明）◉今回の東京東雲（会報）はこれまでの中で一番！でした。特に須崎先生のインタビュー！（山27 橋元 隆子）◉先日熊谷に行く機会がありました。日本で最も暑い街で有名ですが、私には軟式庭球部団体でインターハイ初出場の地で、当時が懐かしく思い出されました。（山28 井上 亮）◉とても懐かしく、心温まる会報をありがとうございました。残念ながら参加できませんが皆さまによろしくお伝え下さい。（山45 故島 るみ子）◉昨年子どもが産まれ、まだ手がかかるため欠席させていただきます。（山54 西原 真美）◉東京学芸大学２年の時一度参加させていただきました。今回は教員採用試験の受験のため鳥取に帰省しているため欠席させていただきます。（山67 小畑 梨奈）

鳥取東高クイズ

創立100周年が近くなりました。東高や故郷のことを思い出してみましょう！

Q1：社会福祉の父と呼ばれている 糸賀一雄氏は我が母校の出身である。　〇か×か？

Q2：鳥取東高校校歌を作曲された田中妙子さんは鳥取東高校の音楽の先生だった。　〇か×か？

Q3：現在鳥取東高にある17の運動部のうち、現在活動していない部活は？　1. 女子サッカー部　2. ビームライフル部　3. 剣道部

Q4：鳥取砂丘は国の天然記念物に指定されている。　〇か×か？

Q5：因幡の白兎伝説で有名なウサギを助けたのは次の誰？　1. 天照大神　2. 大国主命　3. 猿田彦

Q6：日本３大投入れ堂の内、２つが鳥取県にあるが、どことどこにある？

クイズの答えは８ページ左下に▶

古代東高史

倉恒 貞夫（山脈３回）

第２回 男女共学最初のクラス

昭和24年４月５日生徒初登校。ところが『二中の校舎はどこだいなぁ？』何しろ、一中、県女、市女などの生徒は二中に一度も行ったことのないものが多かったので。

現在の東高に行くには、駅前－国府線を駅の方から大橋の方に行き、大雲院の前から右手を見ると、真っ直ぐな大きな路ができていてつき当たりに東高の玄関が見える――と、大変わかりやすくなっています。（このようにするために、関係者のいろいろの苦心談もあるのですが）しかし、当時の右側「福田のうどん屋」の先、左に勢木屋（唐津物や、その他いろいろの雑貨店）のところの右側に小さい路があって、それを入って前田呉服店（いつもおじさんがきちんと正座してお客さんを待っておられました）の前を通って天神川、三枚橋を渡って、土手を少し左へ、そこでやっと東高の玄関が見える（この周辺は何となく窪地があり、昔の道沿に植えたという小さい杉が少しあり、東高の入口は、高さ1mぐらいの半月形のセメントの校門が左右にあり、学校の区域の境には、小川というか、やや大きな溝があって学校側の土もりの上には白萩が1m～2mの高さで茂っていました。これが咲いたときは、大変きれいなものでした）。

校門を入った左側は、たしか泰山木やザクロや、いろいろな木が植えてあって、奉安殿がありました。敗戦後、特に進駐軍のやかましい時代でしたから、何も言えない、むしろ、おぞましい感じだったのですが。

で、がやがや、がやがや生徒が集まり、点呼を受けました。昭和20年の敗戦で、外地にいて引き上げて来た人、予科練に行った人など年齢の大きい人も混じっていたのです。それから、クラス分けで、各ホームルームに行ったわけですが、２年、３年は混合されたクラスでした。７ルームまでが１年生のみの、８ルームから15ルームまでが２・３年生の混合ルームでした。

東高の校舎配列を漢字の三に例えると、一番下が真中に玄関のある棟で、一階は校長室、事務室、職員室、２階は教室で右はしが生徒昇降口で各種掲示板などがあり薄暗い購買その先にトイレ（女子便所がありませんでした）、トイレに並んで、『控所』――ちょっとした小さい体育館みたいなもの。ボクシング部がリングをはって練習する程度の大きさ、卓球部もここをつかいましたが。

三の字の中の棒の一階左はしが、生物教室で、実験台のある部屋。（ここが、私の最初のホームルームでした）その隣が生物準備室、それから教室が２つ、二階は教室が４つ、私達２年のときはこの二階の右はしが２年Ｂ組（2B）で、私共の教室となり、左はしが、2A、中が2Cと2Dでした。昭和25年には、学年を解いたホームルームはなくなりました。三の字の一番上の位置に、１階右はしから化学準備室、理科準備室、物理教室（これは階段教室になっていました）そして２階への階段があり、左側教室３つ、２階はこの上の部分だけ。三の字の左はしに、例のアンサール様式とか云う講堂があり、その上の方の位置に、他校にはなかったプールがありました。

グランドの周りはソメイヨシノの桜が丁度最盛期をむかえて、幹太く枝も地をはうようなものであってすばらしい花盛りでした。桜の樹の寿命は50年といいますから、二中は大正11年創立ということですから30年近く経って樹としては一番よい時だったのではないでしょうか。

桜のむこうは麦畑、菜種畑で、鉄道まで何も建物はありません。授業中、煙を上げて走る列車が見えました。授業のない（自分で作ったブランク、又はさぼって）時は、田圃へ出たり、さらに線路を越えて高農の方へ遊びに出たりしたものです。

さて、初めてのホームルームですが、私たちは『男女七歳にして席を同じうせず。』という教育を受け、幼稚園の時は一緒でしたが、数え年で8歳、小学校に入学すると、男、女はまったく別々の組で、中学、女学校では、女子と話しをするなどはもちろん、女生徒の方を見たなどといって上級生に殴られるというような男女別々、まったく隔絶された世界で成長して来ました。

それが、とんでもない、一緒のホームルーム。名前が示すようにホームルーム活動やら勉強会やらをするということになりそうです。現在も連綿と続いている東高文芸部誌の、1959年鳥取東高十周年記念特集の中に、

＜女学生なるものをそれまで、まじまじと顔を合わせて語合うことなど、不徳？と考えていたので、今の若い人達ではおかしい程、固く緊張したものである。＞（山２ 奥田澄朗）

＜統合と相成って男女混成のクラスが編成されました。あの時あの胸のどよめき、未だに忘れ得ぬものがあり

ます。第一に問題の焦点となるのは席の取り方でした。男女交互に並びなさい。男、女、男、女の順です。…前後左右どちらを向いても皆女性、全く面食らいましたね。今でも覚えています。私が初めて女子と話したのは統合になって丁度６日目、それも私が話しかけたのではありません。後ろから声がかかってきたのです。『消しゴム借してつかんせえな』なんと表現していいのかその時の感激。『ホ』わざと声を荒々しくわずか一言、でも消しゴム持つ手は感激にふるえてさえいたのです。…＞（山３ 田中史郎）

＜最初の失敗はクラスに分けられ担任がおいでになるまでの時間に、僕が発議したことでした。「最初に自己紹介しませんか？ まず僕は一中から来た××です。よろしく。」ところで、女生徒群は、急におびえた小動物よろしく一隅に固まって身をせばめ、まじまじと恐怖の瞳を集中させていました。＞（山３ 倉恒貞夫）

といった様なことで、ホームルームが始まりまり意見発表、クラス討議、リクレーション、クラス対抗各種競技会、生徒会活動、自治活動…がなされて行ったのですが、朝のホームルームが終わると、各自自分の時間割に従って授業を受けました。授業科目と先生と教室が決まっていて。生徒がぞろぞろ自分の勉強教室へ移動しました。「ゲルマン民族」の大移動などと云ってました。

先生方はどなたもすばらしい学力、人格、教養を持ち、教育（特に自治、民主、独立）に情熱を持っておられました。英語は荒木一雄先生。今もその時のプリントが残っていますが、あの当時は物資が無い時代でしたから、薄い薄い透けるようなザラ紙に謄写印刷で、大学授業レベルの教材を次々にもらいました。荒木先生が、御自分が生徒の時、授業のベルがなっても、その先生が授業を続けていたので、『タイムイズモーネぇ』と言って叱られたという話をされたのをふと思い出しました。授業は毎時間、口頭泡の飛び散るような激しい強烈なものでした。校舎の三の字の一番奥の二階の左端の教室でした。

荒木先生に一年間教えていただいて、次の２年生になったとき、西高から東大卒の先生というのが来られました。この先生は我々を甘くみておられたのか勉強不足か、荒木先生に習っていた我々の質問に立ち往生で、リーダーの一行目が、一週間たっても終わらない。一年のとき、冠詞の勉強をしっかりしましたから、まず ‘the’ に対する質問から発して冠詞の特殊例などなど。次に ‘be’ 動詞について…とうとう先生を辞められたとか。

もう一人の先生は、旧制中学の時に教えていただいた、口をひらけば辛辣な言葉が、ぽんぽん次々と出て来る先生で、『君達みたいなでけんもん教えとるより、家に帰って、寝とって本を読んどるほうが、よっぽどええわい…』といったような方でしたが、テキスト ‘イーノックアーデン’ をなかなか皆が購入しないので、テキストのないまま教室に出て座っているという状態で、怒った先生が、『お前やは、もう教えたらん。』と言って教室を出られると『ばんざい。』『さぁエスケープ』。２年の時は、英語の勉強を全然しませんでした。ところが、３年になる時、東西両高校の学力テストか何かあって、当然のことながら英語の学力ががた落ちで、そのために楽しみにしていた修学旅行中止（一部富士登山をした人がいたが）、「3年になる春休みは勉強せえ」ということになりました。私も、英語の文法の参考書一冊、ノートに丸写しして勉強したことを覚えています。３年になったら、若松清太郎先生に教えていただきました。（小樽商高の教授、鳥取商業の校長）おかげで、皆の学力が回復したのではないでしょうか。

まだまだ、各教科のこと、自治会、生徒会のこと、クラブ活動のこと、臨海学校、東高祭… 書くべきことが一パイあります。

カットは山崎勝彦さん（山脈12回）

『古代東高史』は、倉恒貞夫先生（山3）が京阪神支部会報に寄稿されたものを、京阪神支部と先生、山崎勝彦さん（山12）のご了解を頂いて、掲載しています。
倉恒先生が1月29日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

写真で見る東高今昔

改築前の木造校舎正門の写真（昭和37年）

以前の職員室は現在『生徒の自習室』として利用されています

名物教師此処に在り

倉恒 貞夫先生

追悼 ヒガシの縦糸タワシさん

岡田 俊一（京阪神東雲会会長・山脈12回）

倉恒先生は、昭和27年（1952年）３月に山脈３回生として本校を卒業。昭和31年に講師として母校の教壇に立ち、昭和33年には教諭として採用されました。昭和38年に鳥取西工業高校へ異動、昭和46年に再び母校に戻り、平成６年（1994年）の定年退職後も平成13年まで講師として勤務されました。その後も華道部顧問として母校の生徒達に関わり続けました。

東高創生時の様子は「古代東高史」として先生によってまとめられています。

私たちの在学中には先生をあだ名で呼び、カバ・ヒイワシ・ギャクボタル等々、先輩から後輩へと引き継がれていました。その中で倉恒先生はその風貌からタワシでした。

最近の高校生は教わる教師をあだ名で呼ぶことは少なくなりました。「あの数学が…」と教科名か単に名前です。

以前は学校が生活時間のほとんどであったのが、多くの情報が氾濫する現在、考えや生活の場も多様化し、学校は一日の一部でしかありません。

当時は教師と生徒の距離も近く、青っぽい議論の中を迷走し、教師宅へよく遊びに出かけました。ミクロの世界にマクロがありました。

高校進学率も同世代の半数を超え大学が狭き門となり、受験競争が厳しくなり「４当５落」とか「三無主義」など、今では死語になっている詰め込み教育に押しつぶされそうな時代の３年間でした。

倉恒先生がいた東高の空気感を思い出すために日記を読み返しました。

登場するタワシさんは、『有志で夏には城原海岸でキャンプをしているところへやってきて、モズクや栄螺を採っては食べられることを教えてくれる／先生のクラスの朝のHRが長引き化学の授業に遅れ、その間、勝手に自分たちで自主授業をやっていたらそこに先生が来る。爆笑の出る幼稚な質問ごっこをしていたところ、校内巡視中の校長を察知し、とっさに「アルカロイドとはなんですか？」と質問を切り替えると先生はそれに機敏に乗ってくれる／京都の美術展に希望者を連れて行き歌声喫茶も体験。往復夜行で月曜日にいつも通り授業に出る』などとあります。

進学を前に、私の将来目指した仕事は高校教師でした。疾風怒濤時代ともいえる思春期の若い人と交われる時間を共有したいと思いました。そのモデルは東高で過ごした３年間でした。

将来は母校の教壇に立ちたい気持ちを持ちながら兵庫県の公立高校に途中下車をしました。

就職後も先生からは折に触れて連絡が入り、あるときは「講師の口が空いたから戻らないか、１年後に教諭の採用試験を受ければいい」などの話もされました。

鳥取の高校数学科の研究部会で「授業への機器利用」について講演をした折の空き時間に、倉恒先生が担当している理系のクラスで「あんたの好きなことを話しんさい」と言われました。

現在京阪神支部の同窓会に関わっていますが、これも先生からの声がけで参加したのがきっかけです。帰省した折には顔を出していましたが、先生からの連絡は晩年には途絶えがちでした。

その先生から、昨年の８月に電話がありました。少し弱いトーンで検査入院の病院からでした。「90歳になったら同窓会で酒を呑みますで」、その言葉を目指して摂生をされていた倉恒先生との別れは余りに急でした。先生の自宅周りのケアをしていた14回生のMさんから「1月29日14時14分に逝去された」と連絡が入りました。

京阪神東雲会では同窓会幹事でメーリングを組んでいます。先生の訃報に対してそれぞれの回生が想いを語っていました。その中に先生が担任した回生を名簿から調べた投稿がありました。山脈12・14・24・29・30・32・33回です。

おそらくそれぞれの回生、教科、部活で、私がここで述べたようなタワシさんとの物語があると思います。母校が百周年を迎えますが、東高の卒業生達をつなぐ縦糸がタワシさんでした。

通夜のメモリアルコーナーには先生の人柄を表す愛用の自転車に乗った写真がありました。そして先生の残された歌集が開かれていました。その中から２首を紹介します。

来し方－今現在－未来考えること山の様に個室に溢れる
一枚二枚一枚二枚三枚と飛びゆくは黄金色の三角の小鳥か

先生の口調で印象に残っているフレーズは「なんてこってしょう」「そんなことをしたらいけんだが…」です。

柔らかな鳥取弁で、教え子をやさしく諭しているように心の中に響きます。

東雲橋を渡る在りし日の倉恒先生

鳥取東高新旧校長挨拶

令和２年度から母校の校長が代わるにあたって、前校長・新校長より寄稿頂きました

「風となり、水となり」

前校長　尾室 真郷（山脈29回）

平成が令和に変わり、鳥取東高にも、教育にも大きな変革の時期が到来しました。

個人的な話になりますが、私にとっては教員人生を締めくくる最後の年としての令和元年度を特別な想いで過ごしました。実施される学校行事すべてが最終種目であり、全ての行事がこれで最後だと思うと東高での毎日が他に代えることのできない幸いだと実感する日々でした。生徒のために何ができるのか、支えたいと問い続ける毎日でしたが、今こうして振り返ると、実は反対に、多くの感動や喜びを生徒たちが私に手渡してくれていたのだと気づかされます。感謝することが増えた一年でもありました。大好きな鳥取東高がもっともっと光り輝くために、一人ひとりの生徒が「一隅を照らす」人になるために、自分自身のこれまでを謙虚に振り返りながら新しい時代がさらなる飛躍の年になるべく、いま未来の生徒へ思いを馳せています。

教育の基本的な目的は、人としての幸福を求めつつ、社会に貢献できる資質を涵養することにあると思います。鳥取東高教育に携わる者は、これを実現するために、大いに夢を語り、理想を追い求めなければなりません。夢や理想は無限です。ただしかし、具体的な教育においては無限を求める方策は実行力に欠けます。したがって、実際に教育の改善を図るためには、大きな目標に向けて段階的に小さな目標を設定する必要があります。同時に質や量を充実させるような関数をつかんでいなければなりません。その関数の一つは時代感覚だと言えるでしょう。「知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成」することを主眼の一つとした新学習指導要領が2018年3月に公表され、高等学校では2022年度から年次進行で学校において実施されていきます。この変革が真に目指すところは一体何なのでしょうか。高大接続の議論が活発に行われ、記述式・論述式や英語における４技能の重要性やＩＣＴのさらなる活用が謳われていますが、具体策については定まらないところも多くあり、現場は混乱しています。今ほど「本質を見極める目」と「斬新な具体策を実行する力」が求められるような気がしてなりません。

また、グローバルリーダーを育てようとする一方で、ふるさと鳥取を離れていく生徒を育成してしまっているというねじれた現状にむなしさを覚えることもあります。素晴らしい先輩方がこのふるさと鳥取で活躍している姿をしっかりと伝え、鳥取と日本と世界を切り開きながら繋いでいくような、鳥取東高校だからこそのグローバルリーダーを育てたいものです。素晴らしい先生に囲まれ、無限の可能性を持つ生徒がいる本校で、それが出来ないはずがありません。鳥取東高のさらなる発展のために今後は、風となり、水となり、応援し続けていきたいと考えています。

「幸せになるための力」を育む

新校長　中島 靖雄

東京東雲会の皆さま、本年度より本校校長として着任しました、中島靖雄と申します。

皆様には日頃より温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、この原稿を書いている時点では、関東一円が新型コロナウィルスの『感染爆発の重大局面』にあり、予断を許さない状況にあります。社会的にも経済的にも世界が大きな打撃を受け、種々のイベントはもちろん、楽しみにしていた2020東京オリパラも延期となりました。本校でも、感染防止等の観点から様々な教育活動が制約を受けていますが、東京圏の皆さまには、加えていろいろと生活が制約される状況にあることと推察いたします。

人類の歴史は「感染症との戦いの歴史」ともいわれます。古くは中世ヨーロッパで起こったペストの大流行から近代ではスペイン風邪、直近ではエボラウィルスやＳＡＲＳやＭＡＲＳ。特に近年はグローバル化の進展にともなってその拡散スピードも、どんどん速くなる傾向にあります。

きっとこれからもこういった危機が何度も訪れることでしょう。しかし、このウィルスとの戦いに勝利した後、人類はもっと賢くなれる、私は、そう信じています。

さて、そんな中ではありますが、本校でも新学期がスタートし、新たに281名の若人が笑顔で新生活をスタートしました。

激動の21世紀を生き抜く大切な若者たちです。彼らの将来が、自立した幸せな社会生活となるよう、その堅固な基盤をつくることが、本校の使命であり、様々な教育活動を通じて「幸せになるための力」を育みたいと思ってます。そして何年か後の未来に、東雲会の皆様と一緒に胸を張って高らかに校歌を歌える人材を育てていきたいと思っています。大きな国難の中にありますが、どうか引き続き温かく、ときに厳しく見守っていただきますようお願いいたします。

鳥取東高 正門を臨む

幹事紹介

中尾 徹(山脈15回)

昭和39年の東京オリンピックの年に東高を卒業し、東京の広告代理店に40数年間勤めて今日に至っています。「東京東雲会」には、東京駅に近い東京工業倶楽部が会場で同級生の友達と声を掛け合って一緒に出席したのを覚えています。大先輩ばかりなので圧倒され気後れしました。また、山脈15回は「いちご会」と称し、節目ごとに地元で同級会を開催しており、喜寿を迎えるまで頑張っていこうと思っています。リタイア後は、貸農園を借りて野菜作りに精を出しています。収穫した後、仲間達と和気合いあいと収穫祭を行っています。また、健康のため朝四時に起床して毎朝一万歩ほど(一時間少々)ウォーキングをしています。延期になった「2020東京オリンピック」を二回観られることを心待ちにしています。

平井 裕造(山脈42回)

東高卒業後、東京へ出てきて30年、こちらでも同窓生の集まりがあることは僅かに耳にしておりましたが、なかなか“きっかけ”がなく参加することはありませんでした。とある夏、冷たいビールで喉を癒そうと立寄った淡路町の「BaRuRu」が私にとっての“きっかけ”になるとは。店主の片山香織さん(山45)に促され初めて参加した宴席のあの懐かしくも温かな雰囲気。なんて居心地がいいのだろう♪ 次は私が誰かの“きっかけ”になればと…。幹事として尽力してまいります。

訃報

謹んでお知らせ致しますと共にご冥福をお祈りいたします。

●谷垣 公一さん(山脈18回)

一昨年７月逝去されました。(昨年お報せ出来ませんでしたので改めてお報せいたします)

谷垣さんには長年東京東雲会幹事をお勤め頂きました。

●高橋 祐樹先生(山脈39回)

12月18日逝去されました。

母校柔道部顧問として、全国大会へ出場する強豪へと導かれるなどの活躍された、現役の先生でした。東京東雲会HP、Facebookページのトップページを飾る、袋川にかかる桜の写真を提供して頂きました。

●倉恒 貞夫先生(山脈３回)

1月29日逝去されました。

母校で長く教鞭をとられ、東雲会副会長としても活躍された名物先生でした。著された『古代東高史』は会報でも使わせて頂き、東京東雲会総会へも何度も出席されました。

鳥取東高クイズ【答え】

A1：○　A2：○　A3：3.剣道部
A4：○1955年(昭和30年)2月3日指定
A5：2.大国主命(大黒様)
A6：三朝町・三徳山三仏寺と若桜町・不動院岩屋堂
(ちなみに残り１つは大分県宇佐市にある龍岩寺)

2019年東京東雲会TOPICS ～幹事長日記より～

7/19　日本海新聞に令和元年度総会の様子が掲載された。

8/20　日本海新聞『楽しい仲間』に総会の様子が掲載された。

10/16　京阪神東雲会総会に林田会長が出席。
毎年の東京東雲会総会には同会岡田会長にご出席いただいている。

12/21　幹事会忘年会開催(於：シーボニアメンズクラブ)

2/5　東京東雲会事務局打合わせ会(事務局新年会を兼ねて)

おめでとうございます

本城 一隆さん(山脈18回)

令和２年春の叙勲で、永年の千葉県の教育界への功績により、「瑞宝小綬章」を受賞されました。

おしらせ

◆昨年総会で講演していただいた浜崎慎治さん(山46)の初監督映画『一度死んでみた』(主演 広瀬すず ほか豪華キャスト出演)が3月20日に公開されました。
(残念なことに、現在新型コロナウィルス感染症拡大の影響を受け多くの映画館が閉館されています。)

◆東京東雲会事務局が、長年お世話になりました鈴木・曽我法律事務所(鈴木誠名誉会長の弁護士事務所)から本頁下記の住所へと移転致しました。
※電話・ホームページ・メールアドレスについては変更ありません。

〔編集後記〕

私事ですが仕事柄コロナ禍への対応に追われ、当会報は福田静香さん(山45)が編集を、奥田真三幹事長(山23)が寄稿をお願いする方へのお声掛けや自身も多くの寄稿をしていただきました。総会の開催が危ぶまれる中、第３号「東京東雲」をお届けできるのは、多くの皆さまからの寄稿とお二人のご協力、ご尽力のお蔭であると深く感謝しています。

コロナ禍の中、この会報が東高同窓の先輩、同期、後輩に思いをはせる機会となり、更に絆を強め、次回総会開催への橋渡しになることを切に願っています。

(山脈22回　細谷 和夫)

[東京東雲会事務局]
〒182-0016
東京都調布市佐須町4-27-12 メゾン佐須202 細井様方
東京東雲会
電話：090-3087-1394(幹事長 奥田)
Mail：tokyo.shinonomekai@gmail.com
[公式ホームページ]
https://tokyo-shinonomekai.jimdo.com/